

平成29年度公開臨海・臨湖・センター実習 実施計画書

実習タイトル	公開臨湖実習 1 「湖沼環境問題の最前線－霞ヶ浦での調査・実験から理解する」		
<p><実習内容></p> <p>日本第 2 位の面積を誇る霞ヶ浦は、首都圏に位置し様々な湖沼環境問題を経験してきた富栄養湖であるが、いまだに国内有数の漁獲量を維持し、きわめて高い生物多様性を有する豊かな湖でもある。本実習では、霞ヶ浦をフィールドに、環境や水生生物の調査を行い、湖沼に関わる環境と生物科学の研究手法を身につける。さらに、霞ヶ浦が海であった数万年前から現在までの環境の変遷、現在の人の生活によってもたらされる様々な環境変化が生物群集に及ぼしている影響や湖沼環境問題の現状と対策などについても実際にフィールドで体感しながら学ぶ。</p> <p><実習項目></p> <p>(1) 環境調査:船上での水温、透明度、pH、光量子量、溶存酸素量等の測定、実験室内でのクロロフィル a 量の測定と水質分析、湖周辺の地形・地質と古墳等の観察</p> <p>(2) プランクトン・底生動物調査:湖心部や沿岸部でのプランクトンネットや採泥器などを用いたプランクトンと底生動物の採集、顕微鏡を用いた観察・標本作製・同定・計数</p> <p>(3) 魚類調査:ヨシ帯と護岸帯での地曳網、投網、定置網等を用いた魚類の定量採集、室内での魚類の食性調査と食物網の解析</p> <p>(4) 外来生物調査:霞ヶ浦で大增殖した特定外来生物チャネルキャットフィッシュの釣獲調査、カワヒバリガイや外来水草の生息状況調査など</p> <p>(5) 実習の成果発表会</p>			
実習内容キーワード	霞ヶ浦、富栄養湖、湖沼調査、プランクトン、底生動物、魚類		
担当教員氏名・所属・役職名	中里亮治・茨城大学広域水圏環境科学教育研究センター・准教授 加納光樹・茨城大学広域水圏環境科学教育研究センター・准教授 山口直文・茨城大学広域水圏環境科学教育研究センター・助教 荻部甚一・茨城大学広域水圏環境科学教育研究センター・助教		
対象学生・学年	学部生 (院生も可)	開講期間	平成 29 年 8 月 21 日 (月) 昼～ 8 月 25 日 (金) 昼
開講大学・施設名	茨城大学・広域水圏環境科学教育研究センター		
施設の住所	〒311-2402 茨城県潮来市大生 1375		
電話	0299-66-6886	F a x	0299-67-5175
e-mail	suiken@ml.ibaraki.ac.jp	Web Site	http://www.cwes.ibaraki.ac.jp/
交通案内	高速バス停留所「水郷潮来（東京駅から 1 時間 15 分、片道 1780 円）」から路線バス（約 20 分、300 円）もしくは JR 延方駅から路線バス（約 10 分、200 円）で「大生原公民館前」下車、そこから当センターまで徒歩で約 5 分。		
費用	宿泊費（宿泊棟使用料、シーツ代）と食費で 9,000 円		
授業科目名	臨湖実習		
単位数	1 単位 (院生の場合、所属大学院での単位認定不可)	定員数	15 名
授業料の徴収について	国立・公立・私立大学を問わず不徴収。		
受講生選抜基準と申し込み締め切り	先着順。参加希望者は 6 月 30 日までに電話もしくはメールでお問い合わせください。詳しい申し込み方法をお知らせします。		
選抜結果連絡法	e-mail によって、履修に必要な情報とともに本人に連絡する。		